

令和6年度 第2回 安曇野市水環境審議会 会議概要

1	審議会名	令和6年度 第2回 安曇野市水環境審議会
2	日 時	令和6年7月29日 午後2時00分から午後4時00分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎4階 全員協議会室
4	出 席 者	遠藤委員(会長)、村上委員(副会長)、中屋委員、保尊(利)委員、丸山委員、 宮沢委員、山田委員、上條委員、原委員、矢花委員、宮澤委員、門崎委員、崎元委員、 五十嵐委員、池田委員、保尊(と)委員
5	市側出席者	吉田(市民生活部長)、百瀬(環境課長)、所(課長補佐兼環境政策担当係長)、 土屋(環境政策担当)、高橋(環境政策担当)
6	公開・非公開の別	一部非公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和6年8月29日

協 議 事 項 等

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 地域の担い手への普及・広報活動について
  - (2) 地下水に関する市民アンケートの実施について
- 4 報告事項
  - (1) アルプス地下水保全対策協議会協議に関わる報告について
  - (2) 令和6年度事業に関わる中間報告について
  - (3) その他
- 5 今後の予定
 

次回(第3回)の審議会開催について
- 6 閉会

会議概要

3 協議事項

- (1) 地域の担い手への普及・広報活動について

事務局：(資料1の説明)

委 員：2ページ(1)に環境フェアのブース出展や学習会への参加とあるが、開催日時と場所も入れてほしい。委員の皆さんにも知っていただきたい。

事務局：10月12日(土)・13日(日)、午前9時(12日(土)は9時30分)から午後4時まで堀金総合体育館にて開催予定である。

委 員：水巡りツアーのコースに、水をたくさん使う企業であるゴールドパック株式会社を選んだ理由を聞きたい。以前サントリーの工場見学をした際、涵養の宣伝をしていて印象に残ったが、ゴールドパックはどうかと疑問に思ったので。

事務局：水資源の活用を皆さんに知ってほしいということ、ゴールドパック株式会社は企業として保全活動をしている。水を多く採取しているため誤解を受けやすい部分もあるが、正確に説明していただき、座学で水環境も含めて話ができればと考えている。

委 員：資料5ページの一番下に事務局のメールアドレスの@が#の表記になっているのはなぜか。

事務局：スパムメール対策で#表記している。ネットは#表記だが、チラシは変更ができるので、ご意見を参考にさせていただきたい。

委員：Xを開設したとのことだが、若い世代はInstagramやThreadsを使う人が多い。そちらを利用した方が拡散力があり、「あづみの水結」の認知が広がると思うが、開設の予定はあるか。

事務局：市で活用しているSNSはXが多く、相互のリツイートができると思いXにした。また、当初は、アカウントがなくてもXなら閲覧できると思っていたが、今はInstagramもXもアカウントがないと見ることができない。Instagramも魅力的な媒体である。今はXで様子を見るつもりである。

委員：水巡りツアーの定員20名のところ一週間で252名の応募があったのはよい。応募者の多くは市内の方か。

事務局：88組中2組が市外で、あとは全員市内である。

委員：市内の応募者が多いことは地元に関心を持っていることなのでよいと思う。もし可能であれば有料で市外の方を呼べる大人向けツアーの開催を検討してもよいと思う。

## (2) 地下水に関する市民アンケートの実施について

事務局：(資料2の説明)

委員：アンケート内容の方向性についてご質問のある方はぜひお願いしたい。アンケート内容の継続性を重視するのか、一部で新しいトピックを入れるのは結構悩ましい問題だと思う。ミツカン水の文化センターで日本人の水の意識調査をやっていて、同じ項目を20～30年やっている。それだけ蓄積があるとデータに迫力がある。そういうものを目指すなら同じ質問内容を継続することになるが、地元のニーズとかけ離れてしまう場合は有用でないデータになる可能性があり、悩ましいところである。

委員：地下水の枯渇を防ぐために大事にしようというのがアンケートの一番の目的だと思う。このアンケート内容を周知徹底して理解していただく方が増えればそれだけ地下水を大事にしようという機運が高まるので、設問を毎回変えると意図がぶれる可能性があるので、同じアンケート内容でどれくらい地下水に対して理解が深まってきたかを判断する材料の一つにすることが大事なのではないかと思う。

委員：地下水採取量の80%が企業であり、各企業が地下水を多く採取することにより、他のところに地下水が出なくなるようなことになるのなら、各企業さんに負担してもらいましょうということからスタートしたが、今のところ一切請求していない。各企業は涵養よりも採取量を抑えてもらうことが大事である。ゆくゆくは各企業に負担していただくということを考慮したアンケート内容を考えてほしい。

委員：確かに一番地下水採取するのは企業だが、その企業に対してお金を徴収するのが目的であるなら、安曇野市だけの問題ではない。もっと上流の松川町、池田町、大町市或いは松本市など、もっと広域を対象にして企業の理解を得ないと無駄になってしまうと思う。市内の企業からお金を徴収するのは大事だが、ある程度条例なり取水制限なりをしっかりと設けて地下水が枯渇しないように総合的な話し合いをした方がよいと思う。

委員：今、企業の話が出たが、企業対象のアンケートは市民アンケートとは別にあるのではないか。

事務局：企業アンケートは来年度行う。

委員：今回は市民アンケート、来年度が企業アンケートで、アルプス地下水全体で企業向けアンケートのようなものは考えているか。

事務局：まだである。以前から安曇野市だけ取り組みだけではなく、松本盆地が取り組まなければ地下水保全にはならないということを議会の一般質問等もあり、水資源対協議会でも議論があった。アルプス協議会においては各市町村の考え方や地下水に対する思い等々も違う部分もあり、それを踏まえて地下水の流域水循環計画を策定し、その中でできることから取り組んでいくべきだと太田市長が示したと思う。

その中で資金調達、あるいは取水制限の議論がされていくと思う。来年企業に対してアンケートするにあたって、涵養だけではなく全国的にはコカ・コーラボトラーズさんやアサヒビールさんが取り組まれている森林を介した保全活動、平地における節水、企業さんが取り組めるものを主体にアンケートしていきたいと思う。  
資金調達については信州大学の中屋先生にもご相談している水リスクという観点から考え、今後皆さんのご意見を聞きながら進めていきたいと思う。

委員：今まで2回アンケートをしているが、その結果を反映させて行動計画を追加するような項目はあったか。

事務局：前回令和3年度に行動計画の見直しをした。アンケートの中で節水に関する取り組みが一回目で70%くらい、二回目で80%くらいに上がった。それを具体的に活動する場を設けた方がいいということで「あづみの水結」という制度を作った。具体的に令和3年に見直しをかけて令和4年4月から取り組み、節水に対して一般家庭でどういうことをやられているのか、それをこの市の施策として入れられないかという議論をさせていただいた。

委員：節水をして水道局の上りが減るだけで、地下水の減少に関してあまり影響がないのは確かで、先ほどの企業さんへの節水への取り組みは大事になると思うので、計画の見直しに強く入れていただければと思う。

委員：当初は冬水の田んぼに水を入れて地下水を増やすということでスタートしたが、いろいろな過程で駄目だった。調べていくと涵養より各家庭で節水をすれば涵養の倍以上の効果がある。最初の涵養から節水にシフトしてきたなという印象がある。このパワーが広がれば企業さんたちに10といえども大切に使ってほしいとお願いできる審議会になるのではないと思う。

事務局：節水の取り組みで今まで36社の企業さんを回らせていただいたが、まだまだ少ないと思う。企業アンケートの中で節水の取り組みをしていない企業さんがどれだけ取り組んでいただけるかが今後一番の施策で進めていかなければならない部分ではないかと思うので、来年度の事業者に対するアンケートの主軸になるのではないかと思う。

#### 4 報告事項

(1) アルプス地下水保全対策協議会協議に関わる報告について

(2) 令和6年度事業に関わる中間報告について

事務局：(資料3の説明)

委員：麦後湛水事業の総額は予算的にいくらか。

事務局：令和6年度予算ベースで1450万円である。

(3) その他

委員：新聞で水張りの特集が掲載されていて、市民に伝わるひとつとして大きな進展だと思う。今年雪解けが早く、水が流れてしまいたまらない。一般的に水がたまる「涵養」という知識が足りないと感じる。市民アンケートで水結の活動や、涵養への関心、雨水貯留施設の認知という誘導的なアンケート内容があってもよいと思う。麦後湛水事業や雨水貯留施設の補助金のほかに何かもうひとつ補助金のようなものができるとういと思う。

委員：いろいろな意見をぜひ事務局に伝えていただきたい。市民アンケートを単純に回答をもらっただけじゃなく、こちらの施策をアピールする道具にすればよいというのはよいアイデアだと思う。皆さんのいろいろな知恵を持ち寄れば、いろいろな使い方ができると思うので事務局に届けていただきたい。

委員：過去2回のアンケート回収率が30数%では低い。水環境に対して関心が高まってくると、アンケートの回収率も上がるのではないかと感じる。水巡りツアーのチラシが自宅に入った時、私も申し込みたいと思ったので、こういったいろいろな情報を流しながら

関心を高める一助にしてもらえたらいいと感じた。

5 今後の予定

次回（第3回）の審議会開催について

事務局：令和6年度第3回安曇野市水環境審議会は、10月7日（月）午後2時からとしたい。

6 閉会

以上